



人とのかかわりを大切にし、
自分の生き方を見つめ直そうとする子の育成

岡崎市立井田小学校

佐野 恵広

目 次

1. 研究主題	1
2. 研究の仮説と手立て	1
3. 研究の内容	
(1) 学習計画	2
(2) 抽出児童	2
4. 研究の実際とその考察	
(1) 外国に目を向けよう	3
(2) 日本文化を伝えよう	
① 留学生と交流しよう	3
② 日本文化を調べてまとめよう	4
③ 発表の検討会をしよう	6
④ 日本文化発表会をしよう	1 1
(3) 世界の人々と共に生きよう	
① カンボジアの子供たちの暮らしを知ろう	1 4
② カンボジアのことを調べて学区の人に伝えよう	1 5
5. 研究のまとめと今後の課題	
(1) 研究の成果	1 6
(2) 今後の課題	1 7

人とのかかわりを大切にし、自分の生き方を見つめ直そうとする子の育成

岡崎市立井田小学校 佐野 恵広

1 研究主題

これからの日本人にとっては、日本文化のよさを理解し、日本を愛する心を育て、日本人として自信を持って世界に飛び出し、発信していくことが大切である。また、外国の方とふれあい、相手の文化を理解し、互いの同質性や異質性をとらえて人として尊重し、世界中の人々と共生していこうとする心を育てていく必要がある。

最近の子どもたちは、素直で明るく、言われたことには熱心に取り組もうとはするが、自ら課題を見つけたり、追究の方法を考えようとしたりすることが苦手である。また、自分で積極的にコミュニケーションを取ろうとすることがあまりなく、受け身的な子どもたちが増えてきているように思われる。そのため、学級や学校、地域での人とのかかわりが希薄になり、社会性や自主性が身につかず様々な問題を生じている。

このままでは、世界中の国々と共生していこうとしている日本の姿は夢のまた夢で終わってしまうのではないだろうか。これから日本の未来を担っていく子どもたちに、互いを認め合い、高め合う良さを楽しさに気付かせ、協力して作り上げることの喜びを味わわせ、人とのかかわりを大切にして共に生きようとする心を育てていく必要がある。そこで、

人とのかかわりを大切にし

自分の生き方を見つめ直そうとする子の育成

を研究主題として、国際理解教育を総合学習で取り上げて実践していくことにした。

2 研究の仮説と手立て

研究主題を具現化するために、次のような研究の仮説を立てた。

仮説 1

課題設定の場において、人との出会いの場を設定し、追究に方向性を持たせてやれば、自ら課題を見つけ、意欲的に学習を深めていくことができるであろう。

仮説 2

各活動の場において、人とのかかわり合う場を設定することにより、人の考え方や生き方にふれ、自分なりの問いを持ちながら自分の生き方を振り返り見つめ直すことができるであろう。

さらに、研究を進めていく上で、次の4つの手だてを考えた。

① 課題を見つけ、追究に方向性を持たせる場の工夫

- ・ 外国の方との直接的、間接的（VTR・本）な出会いを意図的に設定することにより、自分との価値観・考え方の違いをもとに課題意識を持たせる。
- ・ 追究の目標や方向性を効果的に示すことにより、活動への意欲を高める。

② 追究を深め、表現方法を工夫する場の設定

- ・ 追究の手だてを考えさせることにより、追究を連続・発展させる
- ・ 日本文化継承者の方とかかわる中で、さらに追究を深め、考え方や生き方を学ぶ。
- ・ 発表相手を意識させることで、相手に合った効果的な発表内容・方法を工夫する。

③ 互いに学び合い、深め合う場の設定

- ・ 中間報告会に、検討する場を設定することで、自分の学習に関連づけて学習内容を深め、互いに表現方法を高め合う。

④ 中学生と共に活動する場の設定

- ・ 留学生との交流、表現方法を工夫する場で中学生と共に活動することにより、中学生の企画力、創造力、

コミュニケーション能力を学び、今後の自分に生かそうとする。

- ・ 中学生とはできる限り1対1の組み合わせをつくって活動させることにより、かかわりを深め、相手の良さに気づかせる。

3 研究の内容

(1) 学習計画

単元目標

- ・ 世界の人々、日本文化伝承者、中学生とのかかわりを大切に、その人たちの生き方、考え方にふれ、自分の生活を振り返り、見直そうとすることができる。
- ・ 世界の人々と相互理解に基づいた対等な人間関係の上に立って共に生きようとする心を育てる。
- ・ インターネットや図書資料、聞き取り調査を通して、日本文化、日本人の心を調べ、世界の人々に発信することができる。
- ・ 世界には、その国独自の文化や伝統、生活習慣、価値観があることに気づき、日本文化との異質性や同質性を理解することができる。

今までの国際理解の学習では、外国調べを中心に行ってきたが、今回は日本文化理解に重点を置いて学習計画をたてた。日本を愛し、日本文化の良さを知り、世界に発信していくためだけでなく、子供たちの追究の場において、日本文化の方がより深く追究できるし、文化伝承者とのふれあいを通してその生き方も学ぶことができるからである。また、外国の人々とふれあうには、どう話すかではなく、何を話すかが大切であり、日本文化や日本人の考え方という伝えたい内容があつてこそ、コミュニケーションも深まるはずである。さらに、自国の文化を深く理解してこそ、相手の文化も理解できるし、互いの同質性や異質性をとらえ、人として尊重しようとする心も生まれてくると考えたからである。

そして、「日本文化を伝えよう」で学び方や考え方、主体的・創造的な追究の態度を育て、それを、その後の「世界の人と共に生きよう」の学習に生かしていこうと考えた。

(2) 抽出児童

A子は、能力も高く、自分

月	学習内容	主な手だて・支援	かかわり
4	1 世界の出来事を知ろう(1年間) ○ 世界のニュース ○ 日本との比較	・世界の出来事を調べるにより、日本との共通点や相違点も考えさせる。 ・朝の会のスピーチの時間に2人ずつ毎日発表し、意識を持続させる。	・中学生
5	2 世界の人々と交流しよう (1)ALTと交流しよう③ ○ 簡単な英会話 ○ 外国の暮らし (2)留学生と交流しよう ○ 各国のあいさつ ○ 外国の人の考え方 ○ 外国から見た日本	・外国の人が日本に来ている理由、外国の人から見た日本について聞き、日本人のあり方を考えさせる。 ・中学生から簡単な英会話を学び、交流の準備をさせる。 ・中学生のコミュニケーション能力だけでなく、意欲にも気づかせる。	・ALT ・留学生 ・中学生
6	3 日本文化を伝えよう (1)日本文化を調べよう ○ 日本文化 ○ 日本人の考え方 (2)日本文化発表の準備をしよう ○ 調べたことのまとめ ○ 発表方法の工夫 ○ 発表の準備練習 (3)発表の検討会をしよう ○ 他の班の調べた日本文化 ○ 発表内容・方法の見直し	・道徳で意欲を高め、日本人の心まで深く追究することの大切さに気づかせる。 ・調査段階でできる限り人とのかかわらせその人の生き方考え方を学ばせる。 ・効果的な発表方法を工夫させる。 ・中学生から英語の発音等を学ばせる。	・学区の人 ・祖父母 ・各専門家 ・中学生
7	(4)発表会をしよう 4 世界の人と共に生きよう (1)世界の人々の暮らしを調べよう ○ 世界の文化・暮らし ○ 世界の人々の考え方 ○ 日本との比較 (2)外国の子どもの考え方を 知ろう ○ カンボジアの暮らし ○ 地雷の恐ろしさ ○ 子どもたちの考え	・見るポイントをしぼり、日本文化や発表の仕方を互いに学び合う中間発表の場になるようにする。 ・心の交流ができるように支援する。 ・生活や考え方の相違点、共通点に特に注目させる。 ・自分たちの生活が外国と密接につながっていることを理解させる。 ・多民族国家から共に生きる秘訣を学ばせる。	・中学生 ・ALT ・留学生 ・中学生
9	(3)自分たちのできる国際協力を 考えよう ○ 誰にもできるチョボラ (4)学習発表会で、調べたことを伝えよう ○ カンボジアの現状 ○ 子どもたちの生き方 ○ カンボジアの文化 ○ 絵本・文具集め	・カンボジアの子どもたちが身近に感じられるように、ビデオ、本、カンボジア人講師の話に関係づける。 ・カンボジアの子どもたちの立派な考え方や生き方にふれられるようにする。 ・ボランティア経験者から経験談を聞き、国際人としての生き方を考えさせる。 ・哀れみではなく共に生きるという観点で、自分たちでできることを考えさせる。 ・カンボジアのすばらしい文化や人々の考え方も効果的に伝えられるように、発表内容・方法を工夫させる。	・カンボジアの子ども(VTR・本) ・カンボジア人講師 ・海外ボランティア経験者 ・学区の人々
10	1 (5)絵本や文具を贈ろう ○ メッセージ 2 ○ カンボジア語の絵本作り	・喜んでもらえるように、贈り方、作り方を工夫させる。	
11	5 学習のまとめをしよう 3 ○ これからの自分の生き方	・自分の考えや思いの変化についてもまとめさせたい。	

の考えをしっかりとっており、まじめで決められたことには、こつこつと取り組むことができる。しかし、自分から進んで人とかかわったり、自分の考えを積極的に発表したりすることは控え気味である。外国については、強い関心を持っており、他の子供たちに比べて知識は豊富である。

このA子の興味関心を生かし、本単元を通して自分の課題を見つけさせ、こだわりを持って深く追究していこうとする態度を育てようと考えた。また、人と積極的にかかわって、自己の生き方を見直そうとする態度も育てていきたい。

4 研究の実際とその考察

(1) 外国に目を向けよう

子供たちの目を海外に向けるため、4月の初めから朝の会で毎日2人ずつ1年間続けて海外のニュースを発表させた。発表に使った原稿は、教室の背面掲示板に掲示し、いつでも読めるようにしておいた。

子供たちは、次第に外国についての新聞記事やニュースに目を向けるようになり、海外への関心が高まってきた。

また、ALTから、基本的な英会話や母国の話を聞く機会を設けることにより、外国の人とかかわることの楽しさを味わい、基本的な英会話も習得することができた。この経験をもとにして、留学生との交流会をより高いレベルのものにしていきたいと考えた。



(2) 日本文化を伝えよう

① 留学生と交流しよう(課題を見つけ、方向性を持たせる場)

1対1を基本とした小中学生で構成されるブラザー、シスターを合体させ、中学3年生2、3名と小学6年生2、3名で男女混合のファミリーを19作り、YAMASA言語文化研究所の留学生との交流を計画した。今回を出会いの場として、ふれあうことを一番の目的とし、そこから、個々の課題を見つけさせていこうと考えた。

それぞれのファミリーは、いす取りゲーム、だるまさんが転んだ、福笑い、鬼ごっこ、ボール遊び、トランプゲーム、羽付、折り紙など、互いに楽しめそうな遊びを考えて、中学生が英語で説明できるように準備

	Family name	留学生(国・性別)	遊び
1	The comet wing	Eさん(タイ女性)	いすとり
2	Gachack		
3	New century	Mさん(ブラジル男性)	だるまさん
4	Rainbow butterfly	Aさん(アメリカ男性)	福笑い
5	Smile	Jさん(アメリカ男)	ボール遊び
6	Dumpling	Yさん(韓国女性)	
7	Lightwing break	Bさん(韓国男性)	ぼうずめくり
8	All star	Eさん(バングラデシュ男性)	氷鬼
9	Desperate	Tさん(シンガポール男性)	羽子板
10	Spiral ocean	Gさん(マレーシア女性)	氷鬼
11	Able	Iさん(韓国女性)	ねこどん
12	Dream star	Sさん(ドイツ男性)	おにごっこ
13	Star light		
14	The central wing	Wさん(マレーシア男性)	カルタ
15	Zero in start	Tさん(アメリカ男性)	スパンキーをさがせ
16	The great dipper	Jさん(チェコ男性)	トランプ
17	Cooperation	Sさん(韓国女性)	絵のクイズ
18	Humpty Dumpties	Tさん(シンガポール女性)	紙相撲割り箸
19	Forward	Cさん(韓国女性)	折り紙豆つかみ

資料 2

留学生と楽しく交流しよう

①オープニングセレモニー

②エンジョイタイム

留学生の国の言葉であいさつ
名札を渡す
英語で自己紹介をする
準備してきた遊びをする

③質問タイム

共通の質問をする
「なぜ日本に来たのか？」
「日本について知りたいことは何か？」
「何を大切にしているか？」
「世界の人と仲良くなるには？」

個々の質問をする

④クロージングセレモニー

資料 1

をした。また、質問タイムでは、学習課題へと意識を向けていけるように、個々の質問内容をもとにして、全ファミリー共通の質問を話し合っ

た。

交流会では、はじめのうちは緊張していた子どもたちだったが、中学生が積極的に留学生にかかわって、英語を訳してくれたり、ゲームをしたりするうちに、留学生と積極的にふれあえるようになっていった。

交流会の後に学年集会を開き、ファミリーごとに報告し合った。子供たちは、自分の交流や各ファミリーの発表から、留学生が、自分の信念を持って生きていること、自国の文化習慣をよく理解し、大切にしていることに感心していた。また、彼らの日本文化への関心の高さに驚き、意外にも自分たちが留学生の知りたがって

日本について知りたいこと	大切にしていること・仲良くなる方法
日本の文化や歴史を学びたい。 お茶に興味がある。 日本の人形に興味がある。 日本料理に興味がある 日本語、漢字が知りたい。敬語が難しい 日本の漫画や映画に興味がある。 日本のデザインを知りたい。 日本人の考え方を知りたい。 日本の政治が知りたい。 日本の昔の家、和室が好き。 なぜ、日本人はみんなおじぎをするのか。 なぜ「お世話になりました」と言うのか。 日本人はなぜきまりを守らないのか。	自然を大切にしている。 アマゾンを大切にしている。 大きな木を大切にしている。 あいさつを大切にしている。 家族を大切にしている。 身分の上の人に対する礼儀を大切にしている 自由を大切にしている。 カレーライスを大切にしている。 メールで世界の人と仲良くする。 笑顔であいさつする。 英語で話せるようにする。

資料 3

いる日本についての答えを明確に持っていないことに気づいた。今後の交流についての話し合いでは、生き方や日本の良さを改めて教えてくれた留学生を再度招待して、日本文化を伝えることになった。

目標をより明確にし、追究に方向性を持たせるために、この機を逃がさず、道徳で「さよならホストファミリー」を取り上げ、日本人として日本文化をよく理解し、外国の方に伝えていくことの大切さを話し合わせた。外国にばかり目が向いていた子供たちは、次の感想にみられるように、日本文化を大切にし、調べていくという意識はさらに高まっていった。

主人公から学んだこと

作文 1

- ・「わたしは日本人です」と自信を持つためには、日本の文化や日本人の考え方を調べたり、自信のある目標や夢を持ったりすることが大切だと思いました。
 - ・英会話も大切だけど、日本人としての誇りを持たないといけないなと思った。
 - ・自分の考え方や生き方を真剣に考えていかないといけないと思った。
 - ・相手の国のことを知って、自分の国の文化を伝えることが重要だということが分かった。
- 自国の文化なのに、知らないことが多いので、もっと知っておきたいと思った。（A子）

次に、子供たちの追究が、日本文化を通して日本人の心にまで深まるように、「生活文化のペアをさがそう」を取り上げた。

衣食住を中心に、外国から伝わってきた生活文化と日本に昔から伝わる生活文化を比較させていくことにより、日本古来の文化には、自然の物でできている物が多いこと、日本の気候に合わせて考えられていることから、日本人が昔から自然や四季を大切にしながらも利便性をも考えて生活してきていることに気づき、自分たちの追究も表面的な部分だけでなく、日本人の願いや思いにまで追究を深め、日本人の心や考え方を留学生に伝えたいと考えるようになってきた。

生活文化の比較

問3

日本の昔からの住まいは、どんな工夫がされているのだろう。

だんろ

かまど

いろし

ベッド

ふとん

問4

衣食住の全体に共通して言えることは、どんなことだろう。

・布でできた物が多い
 （・手作りできる物が多い）
 ・自然のものを使って作っている

日本人の心

資料 4

そして、ファミリーごとに伝えたい文化と、その調べ方を決めた。子どもたちは、自分が興味があったからだけでなく、交流した留学生が知りたがっていたこと、興味を持っていたこともふまえながら決めていった。

② 日本文化を調べてまとめよう（追究を深め、表現方法を工夫する場）

まずは、中学生にインターネットの使い方を教えてもらいながら、それぞれの日本文化の概要を調べ、その後は小学生が追究していった。

学区の人材バンク等から聞き取り調査のできるファミリーは、授業後や休日に体験学習をかねて聞き取り調査を行った。そのできないファミリーは、さらに図書やインターネットで深く追究していった。

雛祭りファミリーは、人形店へ行き、雛人形の歴史、並べ方を学び、実際に人形づくりの体験をしてきた。和菓子ファミリーは、和菓子屋で、四季と和菓子との関わり、和菓子の作り方を学んできた。茶の湯ファミリーは、学区で、茶室を持ってみえるAさん宅を訪問し、茶室の作りや、茶道具、和菓子についても学び、そこからもてなす心を学んできた。また、別の茶の湯ファミリーは、お茶の先生をしてみえるBさん宅を訪問し

て、茶の点て方や歴史から、一期一会等の茶の湯の心を学ぶことができた。

このように人々とかかわることにより、親が娘の成長を願う気持ちを大切に

しながら人形作りをしている頭師の情熱や、現代でも四季を大切に、季節に応じた材料で和菓子を作る職人のこだわりや生き方、人をもてなす心を大切にしているお茶の先生や祖父母の姿も学ぶことができた。

再度、目的を再認識させ、意欲を



人形店の頭師から学ぶ子供たち



「季節にあった茶碗を使うんだね。」

	Family name	日本文化	調べた方法	発表の内容と方法
1	The comet wing	茶の湯	インターネット、お茶の先生	茶道具の説明、実演体験
2	Gachack	和菓子	インターネット、和菓子屋	わらびもちの作り方、試食
3	New century	箸	インターネット、祖父母	箸のタブー実演、紙芝居「箸の歴史」
4	Rainbow butterfly	十二支	図書、インターネット	英語でペープサート、占い、年賀状
5	Smile	習字	インターネット、書道の先生	道具の説明、習字体験
6	Dumpling	雛祭り	図書、インターネット、人形店	実物で作り方、顔描き体験、雛人形
7	Lightwing break	古墳	図書、インターネット、社会見学資料	古墳の図、埴輪
8	All star	昔話	図書、インターネット	英語で紙芝居
9	Desperate	着物	インターネット、祖母	着物のがらの写真、着付け体験
10	Spiral ocean	祭り	図書、インターネット、総代さん	法被試着、獅子舞実演
11	Able	俳句	図書、インターネット、5年時の学習から	季語のまとめ、英語俳句
12	Dream star	七夕	図書、インターネット	紙芝居、飾り・短冊作り
13	Star light	箸	インターネット、祖父母	実演、紙芝居「箸とやまのおろち」
14	The central wing	家の造り	インターネット、学区の和風の家	今と昔の家の写真と図、間取りバズル
15	Zero in start	茶の湯	図書、インターネット、学区の茶室	紙芝居「茶の歴史」、実演体験
16	The great dipper	着物	図書、インターネット、祖母	着方の図、着付け体験
17	Cooperation	茶の湯	インターネット、学区の茶室、祖母	掛け軸「一期一会」実演体験
18	Humpty Dumptie s	昔話	図書、インターネット	英語で紙芝居
19	Forward	和紙	図書、インターネット、4年時の学習から	紙芝居「和紙の作り方」

資料 5 験

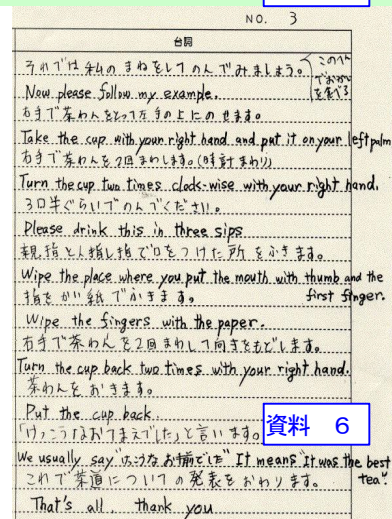
高めるために、発表会のテーマと自分たちの目標を学年集会で話し合った。子どもたちは、「留学生との心の輪を広げたい」「和の心を伝えたい」という思いを込めて目標を「2つのわ」に決めた。

そして、ファミリーごとに発表の内容や方法を決めて準備にかかった。ここでは発表がより効果的になるように、発表内容だけでなく、発表物の大きさや具体物の使い方についても助言していく。

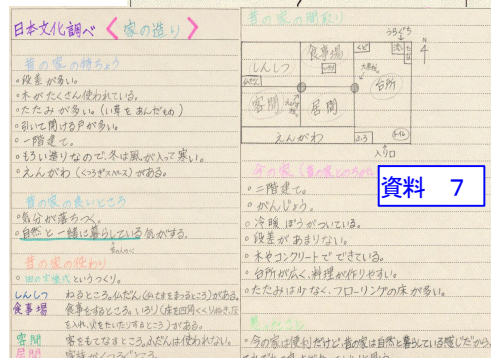
中学生からのアドバイスも受けて、発表物や英語版のシナリオも作成した。どのファミリーも紙芝居、ペープサート、図や写真でまとめた発表物を使い、説明や作り方だけでなく、歴史、日本人の心を入れて意欲的にまとめることができた。

さらに、それに加えて実演や体験を加え、留学生に楽しんでもらえるように工夫を凝らしたものができあがり、発表練習を行った。小学生でも英語のせりふを任せられた子たちは、中学生から発音の仕方などを熱心に学んでいた。

A子のファミリーは、日本の和室が好きだと言っていた留学生のために、家の造りについて調べることに決めた。そして、昔ながらの日本の間取りなどをインターネットや図書で調べ、さらに学区にある昔ながらの純和風の家を探して訪問し、写真を撮ったり取材したりして資料を集め、現在の日本の家と比較した。さらにA子は、昔ながらの家は自然の材料を使用していると聞き、人に優しく自然と共に暮らせるよさを発表の中に取り入れて、発表物を準備した。



資料 6



資料 7

A子の作文

・・・資料が集まると、今度は、どの項目を伝えるかだ。これは、ほぼ意見が一致し、特徴、間取り、今の家と昔の家の違いの3つに決まった。

次はどのように伝えるか。撮ってきた昔の家の写真とMさんの家の写真で、昔の家の特徴と、昔と今の違いを説明することができる。

さて、家の間取りはどうするか。とりあえず、間取りの全体図をかいてみた。すると、「それじゃあ小さいよ。」と、先生に指摘されてしまった。でも、この図もせっかく丁寧にかいたのだからもったいない。そう思っていたら、中学生のKさんが、すごいアイデアを出してくれた。1つ1つの部屋をそれぞれ1枚の紙にかいて、全部あわせて大きなパズルにする。そして、はじめにかいた小さい図は、パズルをやった後で、その答えとして見せてあげるというものだ。みんな大賛成・・・まだ直すところはたくさんあるだろうけど、全体の流れがつかめたのでよかった。ゆっくりはきはきしゃべって、留学生に昔の家について知ってもらいたい。

作文 2

③ 発表の検討会をしよう（互いに学び合い深め合う場）

留学生に伝える前に、発表の仕方を互いに検討し合い、助言し合う、相互評価の場を設けることにした。また、中間報告会を兼ね、他のファミリーの学習内容や方法を知り、自分たちの学習に関連づけたいとも考えた。

3つ、4つのファミリーを集めて6グループを構成し、グループでのローテーションセッションを3時間行う。各グループの検討会がスムーズに進行できるように話し合う項目「初めて知ったこと」「自分たちの発表に取り入れたいところ」「よくしたいところ」を与え、小学生が主体的に活動できるように励ましていく。そして、この学習を生かして、留学生への発表会をよりよいものにしていきたいと考えた。

また、3時間のうちの第1時には、今まで交流してきた4人のALTに加え、高校のALTにも参加してもらい、発表内容や方法へのアドバイスもしてもらうことにした。この他者評価により、発表方法をより効果的なものにしたり、他者からの称賛を受けることにより自信を高めたりしたいと考えた。

ALTの代表と、事前の打ち合わせを行い、英語だけでなく、発表の仕方（方法、態度、資料の効果的な提示方法）にも重点を置いてコミュニケーション能力を高めてもらえるようお願いした。

総合的な学習指導案

1. 単元 世界へ飛び出そう（小学校48時間完了・中学校29時間完了）

2. 単元の目標

小学校6年 ・中学生と楽しくかかわって活動し、中学生のコミュニケーション能力や企画力、統率力に気づき、自分の今後の生活に生かすことができる。

・世界にはその国独自の文化や生活があることに気づき、日本文化との相違点や共通点を見つけていく中で、互いの文化や生活を尊重し、共に生きようとする心を持つことができる。

中学校3年 ・小学生の能力を見極め、援助の仕方を考えることにより、他者を思いやる心を育てると共に、自分の生き方を見つめ直すことができる。

・世界の国々や日本の生活・文化の違い、共通点に気づき、他国の人々と相互理解し、国際社会で生きていくための資質や能力を高めることができる。

3. 活動計画（○数字は指導時間数、（ ）内数字は交流時間数を示す）

第1次	世界に目を向けよう	小○随時・中○随時
第2次	世界の人々とふれあおう	小⑧・中⑥（5）
第3次	日本文化を知らせよう	小⑩・中⑬（11）本時8／11
第4次	世界の文化を調べよう	小⑧・中②（2）
第5次	多民族国家から共に生きることを学ぼう	小⑥・中②（2）
第6次	自分たちのできる国際協力を考えよう	小⑩・中⑥（5）

4. 本時の活動

（1）実態

4月当初、小学生の積極性、中学生のリーダー性において、自覚が持てるように、小学生2～3名と中学生2～3名で構成される19のファミリーを男女混合で作し、交流活動「国境を越えて、ドッキンすごろく無限大」交流会を行うことにした。小学校6年生は、観察力に鋭く、学習に真面目に取り組むもうとするが、指示待ちの傾向が強く、自分から考えて行動することが苦手である。中学校3年生は、真摯で積極性があり、交流活動をよりよくするために小学生のよさを引き出そうとするが、控えめな小学生に困惑している状態である。

今までに子供たちは、留学生との交流を通して、外国の方が、自分の信念を持ち、自国の文化習慣をよく理解し、大切にしていることに感心していた。また、彼らの日本文化への関心の高さに驚き、日本人として、日本文化をよく理解し、外国の方に正しく伝えていかなければならないことに気づいてきた。そこで本次「日本の文化を知らせよう」を設定し、自分たちや留学生が関心の高い日本文化を選択して調べ、世界の人々に発信していこうと考えた。本時まで、子供たちは、自分のファミリーの課題を調べてまとめ、発表の準備をしてきている。

本時は、留学生に伝える前の、発表の仕方を確認する授業の第1時である。3つ、4つのファミリーを集めて、6グループを構成し、グループでのローテーションセッションを行う。他のファミリーの発表を聞き、自分たちの調べていない日本文化について学ぶと共に、発表の仕方についてファミリーで話し合い、意見をまとめてお互いに助言し合う。教師は、各ファミリーの中学生が進行しやすいように話し合う項目を与え、小学生が主体的に活動できるように励ましていく。本時の交流活動とおして、小学生は、中学生のよさを感じ、ファミリーの一員として積極的にかかわろうとする心を、中学生は小学生のリードの仕方や、的確なアドバイスの仕方を学び、互いに成長しあっていることを願っている。そして、この学習を生かして、留学生への発表会をよりよいものにしていきたいと考えている。

(2) 目標

- 小 ・自分の考えを持って積極的に話し合い活動に参加し、ファミリーの一員としての自覚を持つことができる。
- ・他のファミリーの発表を聞き、日本文化を理解すると共に、発表の内容のよい点を見つけることができる。
- 中 ・小学生の意見を引き出して、ファミリーをリードし、話し合いをまとめようとするすることができる。
- ・他のファミリーが調べた日本文化を理解すると共に、発表の内容がよりよくなるように的確にアドバイスすることができる。

(3) 展開

段階 (分)	学習活動 小学校6年 中学校3年		教師の指導・支援 小 (T1・T2) 中 (T3・T4)	備考
	日本文化の発表内容をよりよくしよう			
出 会 い (7)	1 進行係の指示で小学生が何さあつてめいさつをする。	2 進行係が本時の目標を発表する。	・子供たちが集中しているか観察する。	本時の計画を書いた模造紙 発表物 進行係 中学生1人 小学生1人
	3 進行係が本時の進め方を発表する。		・進行の仕方について助言する。(T3)	

(5)	7 ALTから、英語や発表内容についての助言を聞く。 8 進行係の指示で集まり、本時の反省をする。 ・めあての反省 ・今後の予定 9 ALTにお礼を言い、小中学生が向き合って、あいさつをする。	・ALTの説明が理解できているかどうか観察し、助言する。 ・進行の仕方について助言する。(T1) ・今日の活動でよかったところ、本時の係をほめ、子供たちと共に拍手する。(T3) ・子供たちの様子を観察しながら、一緒にあいさつをする。	
-----	--	---	--

(4) 評価

- 小 他のファミリーの発表内容のよい点を見つけ、自分たちの発表の参考にしようとしたことができたか。
- 中 小学生の意見を引き出してファミリーをリードし、発表内容をよりよくする方法をまとめることができたか。

展 開 細 案

学習内容	時間	学習活動 小学校6年・中学校3年	教師の指導・支援 小 (T1・T2) 中 (T3・T4)
前日		「発表ファミリー」は、発表物などを準備しておく ・置けるものは、体育館に、大切な道具は多目的室に置く	・各班の準備の確認。 AB (T3) CD (T2) EF (T1) ・畳6枚、ポット、衝立2、長机4、いす6 ・ALT用プリント、タクシーチケット3枚 準備 (T4)
当日		「全員」筆記用具、クリップボード、プリント、名札、ALT用のプリント 筆記用具は、それぞれの発表場所にかためておく。司会者は指示棒。	
準備	1:20	小学生は、体育館シューズを持って、体育館北側入り口から入る。靴は、北側に並べておく。	※ALTは、12時半到着予定。到着したら中学校和室へ案内する。(T4) ・ALTに帰りのタクシーチケットを渡し1:25になったら、体育館へ案内する。(T4)
始めの会	1:35	発表ファミリーは、発表準備 他の子は、名札、プリント、クリップボード、筆記用具 ※準備が終わったら、体育館でいつも通りにファミリーごとに座る。	【タクシー】ALT1台、高校2台 ・各班の準備の確認。(T) ・ゲーマーへの補助 (T) ・教師の配置 進行横 (T3) 南前側 (T1) 南後 (T2) 北前側 (T4, ALTと共に)
本時の目標		※始まるまでの間があれば、中学生が、ゲームを行い、雰囲気高める。ゲーマー () ※発表ファミリーは、準備をつづける 「こんにちは」 「おなかいいします」 「今から『国境を越えて、ドッキンすごろく無限大交流会』を始めます。」 「模造紙を見てください。今日の予定を発表します。」 「今回のミッションは、日本文化の発表内容をよりよくしようです。」	・一緒に挨拶をする (T) ・全体の把握+進行係 (T3) ・北側のグループ観察 +ALTへの通訳 (T4)
めあて		「小学生のめあては、 です。一緒に言ってみましょう、さんはい。」 「中学生のめあては、 です。一緒に言ってみましょう、さんはい。」	・南側のグループ観察 (T1, T2) ・全員が模造紙に注目しているか観察し、指導する。(T) ・声が小さい場合はもう1度言わせる。(T1, T3)
時間配分		「今日の計画を発表します。」 1:35~1:42までが、今日の予定 1:42~1:45までが、移動と準備 1:45~2:00までが、発表 2:00~2:07までが、感想をプリントにまとめる 発表ファミリーは、片づけ 2:07~2:15までが、意見発表 ALTの先生からのお話 2:15~2:20までが、自分たちの発表の総括・注意事項	

本時の係 ALT紹介		2:20~2:25までが、移動と反省会です。」 ※進行係小学生は、指示棒で模造紙を指しながら発表する。 「全体の進行係は、中学生が。小学生は、です。」 「今日の英語の発表について、助言して下さるALTの先生と留学生を紹介します。」 I'm going to introduce our guest teachers to you. The teacher of A group is Ms. Helen Crabtree from Canada. The teacher of B group is Ms. Prasangi Ranaweera from England. The teachers of C group are Ms. Lorna Jones and Ms. Jaqueline Cherry. They are exchange students at High School. The teacher of D group is Ms. Kamie Itoh. She's teaching at Commercial school. The teacher of E group is Ms. Rebecca Holloway from Canada. The teacher of F group is Mr. David Chow from Canada. 「先生のお話」	・ALTを前に連れていく (T4) ・英語の紹介の仕方について、必要があれば助言する。(T4)
先生のお話		「それでは、発表ファミリーの中学生が、担当のALTの先生をご案内して、始めてください。」 The chief of the group will come to pick you up. So please follow him to meet your group.	・ALTの横で、自主性、補助の仕方などについて話す。(T1) ・一緒に移動をし、発表できる体制になっているかどうか確認する。(T1, T2, T3)
移動・準備	1:42	※ファミリーの()がALTの先生をご案内する Hello. I'm (). Please follow me.	・中学生がALTを案内できているかどうか確認する。(T4)
発表	1:45	※ファミリーの()は、ALTの先生のいすを用意する。 「それでは、()ファミリーの発表を始めます。発表の間は、メモはとらないでください。発表が終わってから書いてください。」 Now we'll begin the presentation. Please don't take notes during the presentation but only after the presentation.	・発表ファミリーの進行の様子、聞いている子たちの様子を観察する。(T1, T2, T3) ・英語がうまく伝わっているかどうか観察する。(T4)
感想のまとめ	2:00	「これで、()についての発表を終わります。」 「ぼくたちの発表について、感想や気づいたことをプリントに書いてください。」 Please write down what you thought about our presentation. We're going to ask you about it later. ※その間に、発表ファミリーは、片づけをする。	・まとめ方について助言する。(T1, T2, T3) ・巡視をし、上手にまとめている子をほめる。 ・具体的に書かれていない子に助言する。(T1, T2, T3) ・まとめ方の困っているALTに助言する。(T4)
助言	2:05	「それでは、ぼくたちの発表についての感想や意見を言ってください。」 ※手を挙げた子からさしていく。なるべく小学生から。 手が挙げられなければ、適当に指名する。 発表班の小学生は、意見をプリントにまとめる。 「ALTの先生から、助言をいただきます。」 Now we'd like to hear from you about our presentation. 「ありがとうございました。今の意見を参考にして、本番の発表をよりよいものにしていきたいと思います。」 Thank you very much. With your advice, we will make our presentation better. 「今出た意見を参考にして、自分たちの発表をよりよくするためには、どうしたらよいかをファミリーで話し合ってください。」	・進行について、必要があれば助言する。(T1, T2, T3) ・意見の内容がよく分からないときは、補説する。(T1, T2, T3) ・高校留学生につき、英語が難しい場合は、解説する。(T4)

ファミリーの話し合い	2:15	※ファミリーで丸くなってすわる。 「司会は（ ）が、書記は（ ）がやります。では、今の発表や意見を参考にして、自分たちの発表内容で、変えた方がよいところがあれば言ってください。」 ※発表ファミリーは自分たちの反省会を同じように行う。 ※順番に指していく。 「自分たちの発表の仕方、注意した方がよいことを言ってください。」 ※時間があれば、変更、付け加えをすることについて話し合う。 「（書記）では、7月7日にむけて、次のことに注意して準備や練習をしていきましょう。（書記が決まったこと、注意することをまとめて言う。）	・中学生の司会の仕方を観察し、必要があれば助言する。（T1, T2, T3） ・積極的に活動している小学生をほめる。（T1, T2, T3） ・意欲的に取り組んでいるファミリーをほめる。（T1, T2, T3）
後片付け	2:20	「片づけをして、始めの位置にもどってください。」 Please move back to the left side again. ※全員が始めの席にちゃんと座ったら 「今から、反省会をはじめます。」 「今日の目当てについて、反省を発表してください。」 「小学生の人、今日の反省をいってください。」 ※3人程度指名して発表させる。 「中学生の反省を聞きます。」 ※3人程度指名して、発表させる。 「今日は、ALTの先生や、留学生のおかげで、とてもいい勉強ができました。」 Today we've learned a lot about how to present because of the ALT and exchange students. Thank you very much. 「僕に続いて英語でお礼を言いましょう。」 Thank you very much. 「先生のお話。先生おねがいします。」	・時間を確認しながら、片づけを見守る。（T1, T2, T3） ・反省会ができる状態かどうか確認する。（T1, T3） ・ALTを北側前側へ移動させる。（T4） ・教師の配置 進行横（T3）南前側（T1） 南後（T2） 北前側（T4, ALTと共に） ・全体の把握→進行係（T1） ・北側のグループ観察 +ALTへの通訳（T4） ・南側のグループ観察（T2, T3） ・英語の司会、お礼について困っていたら補助する。（T4） ・今日の活動でよかったところをほめる。発表ファミリー、進行係、反省の発言者をほめ子供たちと共に拍手する。（T3）
反省			
あいさつ	2:25	「起立、気をつけ。これで、『国境を越えて、ドッキンすごろく無限大交流会』を終わります。」 「ありがとうございました」「さようなら」	
会場片付け		片付け	・一緒に片付けをする。（全員） ・会場の片づけをさせる。（T1, T2, T3） ・ALT、留学生からコメントのプリントをもらいタクシーに乗せる。（T4）

Comments for better presentation

Group(C) Topic (TEA CEREEMON)
Name()

●What made you surprised? What was new to you?

Did this presentation help you to understand Japanese cultures? And how?

Yes it help us understand a little bit more about Japanese culture.
The way you explained each instruments(tools) name and how to use it.
I learned how to say after drinking Green Tea.
How to eat Manju properly!!
(#180)

●What was good things about this presentation?

(ex. how to explain, content, pronunciation, and so on)

How you showed us each step slowly. How you pronounced the english clear.
Very helpful. The encouragement was great.

●What was good things about this presentation?

(ex. how to explain, content, pronunciation, and so on)

GOOD PRONUNCIATION
STUDENTS NOT SHY TO PUT CLOTHING ON OTHER PEOPLE!

→ LOUD, CLEAR VOICE.

ALL: WELL- PREPARED

●What was unclear? What can be improved? (voice, pronunciation etc.)

In which part do they need more explanation?

EYE CONTACT

SAY: "LIKE THIS" WHEN DEMONSTRATING

資料 8

子どもたちは、それぞれのファミリーの発表を真剣に見つめ、初めて知る日本文化だけでなく、良かったところや自分たちの取り入れたいこと、よくしたいところなどを見つけてアドバイスし合った。さらに、ALTからも、お褒めの言葉やアドバイスをいただき、それらをもとに、本発表に向けて発表物を作り直したり、練習したりして、発表をよりよいものにしていった。そして、留学生たちに英語で招待状を送り本発表の日を待った。A子は、検討会で着物ファミリーの発表を真剣に見つめ、積極的にアドバイスすることができた。また、他のファミリーから自分たちの発表の仕方を認



「話すときは、アイコンタクトが大切です。」

友達からのアドバイス		ALTからのアドバイス	
よいところ	よくしたいところ	よいところ	よくしたいところ
声が大きく聞き取りやすい よく暗記できている 写真や図がよい 劇やパズル、実演がいい 画用紙の絵や説明がいい	声が小さく、聞き取りにくい 間があきすぎてしまう。 絵の出し方をわかりやすく 日本語はゆっくり話す。 まっすぐ前を向いて立つ	英語の発音が上手 楽しそうに説明できた しっかり準備ができていた ステップをふんでわかりやすく説明できた	目を見て自信を持って話す 発表物で顔を隠さない 動作を大きくするとよい 実演するときは「like this」と言ってくれるとよい。

めてもらえたことから、自信を持って本番を迎えることができた。

資料 9

A子の作文

・・・デスパレット（9班）の着物の発表を見た。見ていて飽きなくて、アドバイスを紙に書くとき、思ったことをどんどん書いて発表できた。・・・最後に発表するのはけっこう緊張するもので、今更ながらせりふを間違えないか、順序よく進んでいくか心配になってきた。それは、見事に当たった。中学生の英語を交えての発表が初めてであったため、せりふを言うタイミングがつかめなかった。発表が終わり、アドバイスをメモする。声が大きく聞き取りやすい、パズルがあっておもしろくわかりやすいなどがんばったことを認めてもらえてうれしかった。注意したいことは、まっすぐ立って前を向いて言う、絵を見やすく出すとよいということだった。ファミリーで話し合い、英語と日本語のタイミングを合わせることを、絵を見やすく出すことに気をつけて練習をすることになった。

本番は相手にわかりやすく伝えたい。失敗しても気にせず、堂々と発表したいと思った。

作文 3

④ 日本文化発表会をしよう

国境を越えて！ドッキンすごろく無限大交流会 ミッション8 ラフスケジュール

- 1 目的
 - 外国人留学生との交流を通して、望ましい国際性を培うとともに国際親善を図る。
 - 外国人留学生に接することにより、視野の広い国際人としての資質向上を図る。
 - 日本の文化の一端を外国人留学生に紹介する。
 - 英語によるコミュニケーションの機会を通して、英語力を高める。

2 交流相手 ヤマサの外国人留学生(17)・高等学校の講師(2)19名の予定(当日減るかもしれない)

	Family name	日本文化	1回目の発表を聞く留学生(国・性別)	2回目	3回目
1	The comet wing	茶の湯(多目)	インオンさん(タイ女性)		テイさん
2	Gachack	和菓子	ローナさん(ニュージーランド女性)	インオンさん	
3	New century	箸		マークさん	ララさん
4	Rainbow butterfly	十二支		ミスクさん	マークさん
5	Smile	習字	ベローナさん(フランス男性)	ララさん	
6	Dumpling	雛祭り	ユンさん(韓国女性)	ピコさん	ジャクリーンさん
7	Lightwing break	古墳		レーマンさん	ハンさん
8	All star	昔話	ララさん(オーストラリア女性)	ジャクリーンさん	
9	Desperate	着物(多目)	テイさん(シンガポール男性)	ユンさん	
10	Spiral ocean	祭り		テイさん	ミスクさん
11	Able	俳句		ベローナさん	インオンさん
12	Dream star	七夕	レーマンさん(ドイツ男性)		ユンさん
13	Star light	箸	ジャクリーンさん(オーストラリア女性)		レーマンさん
14	The central wing	家の造り	ピコさん(マレーシア男性)	ローナさん	
15	Zero in start	茶の湯(多目)	マークさん(アメリカ男性)	ミジョンさん	ステファニーさん
16	The great dipper	着物(多目)	ハンさん(韓国女性)		ピコさん
17	Cooperation	茶の湯(多目)	ミスクさん(韓国女性)	ハンさん	ベローナさん
18	Humpty Dumpties	昔話	ステファニーさん(シンガポール女性)		ミジョンさん
19	Forward	和紙	ミジョンさん(韓国女性)	ステファニーさん	ローナさん

※ 発表が終わった班は、留学生を次の班の場所に連れていくこと

ユンさん(韓国女性)	6班 七夕	9班 着物	5班 習字
ジュンサンさん(韓国男性)	7班 古墳	12班 七夕	1班 茶の湯
エデシャムさん(バングラデシュ男性)	8班 昔話	10班 祭り	9班 着物
テイさん(シンガポール男性)	9班 着物	13班 はし	8班 昔話
ルーンさん(マレーシア女性)	10班 祭り	1班 茶の湯	3班 はし
ヨンソンさん(韓国女性)	11班 俳句	16班 着物	2班 和菓子
レーマンさん(ドイツ男性)	12班 七夕	7班 古墳	13班 はし
ジャクリンさん(オーストラリア女性)	13班 はし	8班 昔話	6班 雛祭り
ピコさん(マレーシア男性)	14班 家の造り	6班 雛祭り	16班 着物
マークさん(アメリカ男性)	15班 茶の湯	3班 はし	4班 十二支
ヤンさん(チェコ男性)	16班 着物	5班 習字	7班 古墳
ミスクさん(韓国女性)	17班 茶の湯	4班 十二支	10班 祭り
ステファニーさん(シンガポール女性)	18班 昔話	19班 和紙	15班 茶の湯
ミジョンさん(韓国女性)	19班 和紙	15班 茶の湯	18班 昔話

3 場所 中学校体育館, 多目的室

4 参加者 小学校6年生児童 男子27名, 女子36名, 計63名
中学校中学3年生生徒 男子21名, 女子19名, 計40名

5 当日までの準備
名札(留学生用, 個人用), 招待状, 招待する人の国のあいさつが言えるようにしておく

6 当日の持ち物
児童・生徒 ……留学生の名札, 自分の名札, 発表会でいるもの, 体育館シューズ
教師 ……タクシーのチケット, カメラ, ビデオ

7 交流会の流れ

時 間	内 容	児童・生徒	教 師
9:40~	留学生の人数確認・タクシー手配 準備 PICKING UP 迎え(9:30 高等学校) (9:40 YAMASA II)	・体育館・多目的室で準備する ・出迎え(接待係) すぐに体育館にお連れする	・タクシー(T1) ・出迎え(T1・T4)
10:00~	Opening ceremony【体育館】 (1) 挨拶 「ヤマサの留学生のみなさんようこそ いらっしやいました。今日は、私たちの 日本文化発表を楽しんでください。」 (2) 名札渡しと移動 「ファミリーのダディーは、名札を渡して 自分たちの発表場所に連れて行ってあ げてください。他のファミリーの人も一 緒に移動して、発表を始めてください。 」	・発表物に気をつけながら、いつ もの場所で並んで立つ。 ・拍手でむかえる ・挨拶()() ・名札渡し (各ファミリーのダディー)	・写真 ・ビデオ ・補助 ・通訳
10:15~	1回目の発表【各活動場所】	・ファミリーのダディは、次の発表 の2分前になったら、留学生を 次の発表を聞く場所に連れてい く。	・巡視, 補助 ・写真 ・ビデオ
10:35~	2回目の発表		
10:55~	3回目の発表	・時間が余ったら、質問を受け たり、楽しく交流したりして待つ。	
11:15~	Closing ceremony【体育館】 ・お礼の言葉「今日はお忙しい中お越しい ただきありがとうございました。私達もと てもいい勉強になりました。さようなら。」	・各班たて2列で並ぶ ・お礼の言葉 ・花道をつくって見送り ・接待係は校長室へ誘導	・補助 ・誘導(T1・T4)

11:25～	片づけ	・班ごとに片付けをする	・片づけ(T2・T3)
11:40	Taking students to YAMASA (12:00 YAMASA) Taking ALT to 高等学校 (12:10 高等学校)		・見送り(T1・T4)

8 今後の予定

お礼の手紙を書く(人形店, 和菓子屋, 茶の湯の先生2人, 獅子舞を指導してくださった方, 七夕の竹をいただいた方, ALT, 留学生)

Rough Schedule on the day

Place : The gymnasium of Secondary School

9:30AM Picking up at the parking of High School by Taxi

9:40AM Picking up at the parking of YAMASA by Taxi

- 10:00～10:15 Opening ceremony
A welcome speech by the pupil of Primary School and the student of Secondary School
Meeting with each other
 - 10:15～11:15 Announcement of Japanese culture
Enjoying of three kinds of Japanese culture.
If you have any questions, please ask the students.
10:15～10:35
10:35～10:55
10:55～11:15
 - 11:15～11:25 Closing ceremony
A short speech by the pupil of Primary School and the student of Secondary School
 - 11:25～11:35 Gratitude from the principal
- 11:40～ Taking ALT to High School
Taking students to YAMASA

日本文化発表会当日。子供たちは、練り上げた発表に加え、それぞれ招待する留学生の国の言葉でのあいさつも交えながら発表した。日本文化を発信するのだという意欲を持ち、聞いている留学生の様子を見ながら、熱心に伝えていた。

A子は、「日本の家の造り」の発表を、留学生の目を見ながら、理解してくれているかどうか気遣いながら、発表をしていた。発表後に、留学生が日本の家に住みたいと言ってくれたことで、日本の良さを伝えることができた喜んでた。また、留学生の日本への理解や思いやりの気持ちにも気づいたようである。



A子の作文

・・・そしてむかえた7月7日。きんちょう感は全くなかった。体育館に入っしばらくすると、留学生の団体が来た。その中には、もちろんPさんも。

時間になり発表となった。順調に進み、私の番がきた。相手の目を見ながら、話を理解したように見えた次へ進んだ。発表しているときは、Pさんもこちらに目を合わせてくれていた。

発表が終わり、Pさんが、「日本の家に住んでみたい。」と言ってくれうれしかった。日本の家の良さを伝えることができた。・・・

作文 4

(3) 世界の人々と共に生きよう (今までの学習を生かす場)

① カンボジアの子どもたちの暮らしを知ろう



写真 8

「カンボジアの子供たちはとても明るいですよ。」

6年生は、毎年、カンボジアの現状を学び、自分たちのできる国際協力を考えてきた。しかし、今回は、カンボジアの子どもたちの暮らしや考え方を中心

に取り上げ、課題意識を高め、自分たちの生活を見つめ直してほしいと考えて授業を組んでいくことにした。

地雷についてのビデオとアジア保健研修財団の冊子を提示することにより、子供たちは、地雷の恐ろしさと、その中で暮らしているにもかかわらず、明るく将来の夢を持ってたくましく生きている、自分たちと同じ年齢の子供たちの姿に驚き、感動していた。

そして、毎年来ていただいているカンボジア人のBさんをお招きしてお話を聞いた。Bさんから、今回は、カンボジアの子どもたちのすばらしさを中心に話していただいたところ、その話の中で、子供たちが1番心に残ったのが、「カンボジアの子供たちの方が日本の子供たちよりも明るい」という言葉だった。前回ビデオで見た地雷で片足をなくした子どもの笑顔やアジア保健研修財団の冊子の物語に出てきた子どもたちの姿とだぶらせ、自分たちよりもつらい暮らしをしているカンボジアの子供たちが、明るく、優しく思いやりの心で人に接していることから、自分たちの生活を振り返ろうとする姿勢が現れてきた。

A子は、自分のポートフォリオに「平和ってナニ？」とメモを残した。それを取り上げて全体場で投げかけることにより、子供たちは、本当の平和とは何かということも考え始めた。家族そろって楽しく過ごしたり、元気に学校で勉強できたり、安心して眠ったりできることがカンボジアの子供たちの考える平和だということや、いじめもなく、互いに助け合い、相手を思いやって生活しているカンボジアの子どもたちの姿から、自分たちの住んでいる日本は本当に幸せなのかと疑問を持つようになってきた。そして今までの6年生が毎年、学習発表会でボランティア活動を訴えてきたにもかかわらず、自分がカンボジアについてよく知らなかったことに気づき、どんな国なのかをさらに調べ、学習発表会で自分たちの感動を伝えたいという意欲が高まっていった。

児童の作文

・わたしたちは口では「かわいそうだね。」と言っているけど、何もできず、見て見ぬまみに通り過ぎていっている。私たちと同じ年なのに、とても差をつけられていると思う。みんなで協力し合う心が少しずつなくなっていく日本人と、協力することを今でも忘れていないカンボジア人とは、すごい心の差だ。わたしは、カンボジアの子どもたちから、本当の優しさや強さを学んだような気がする。・・・

・一番大切なことは、世界が一つになること。カンボジアの子供たちから一番大切なことを教わった。みんなが平和に暮らせて笑顔が絶えない、そんな暮らしにしたい。カンボジアの子供たちは、悪い方向へ考えずに、「平和になれるように。」とめざして、将来のことを考えている。そんな優しい心がたくさんあるカンボジアは、すばらしい国になると思う。それを手伝うために何をしていけばいいかと思う・・・(A子)

作文 5

カンボジアについて。

勉強したこと、習ったこと

人口：1149万人 首都：プノンペン
 宗教：仏教 面積：18万1000 km²
 言語：カンボジア語 民族：クメール人、中国人、バトナム人他
 メコン川 東南アジア最大の川。
 トンレサップ湖 世界でいちばん魚の種類が多い湖。
 アンコールワット 12世紀に完成した、フメル文化を象徴する世界的に有名な遺跡。

ソパアックさんから学んだこと (子供編)

- 自分は何から何まで物をもらうのがあたり前。働かないと食べられない。
- 年令は関係なく、働けるようになったら働く。
- カンボジアの子供は、好き好きはいらない。こはんとええおはいいい。
- 子供たちは、自然と遊んでいる。
- 子供たちはすごく明るい。未来のことは考えない。
- 笑顔がすばらしい！
- いじめや差別はない。
- かんかんばつ。夜7時から始まる。
- 明るい満月の日にやると、すごく難しい。

ソパアックさんから学んだこと (地雷編)

- 地雷を全部とるのに、数十億円かかる。
- 1コ地雷をとるのに、1万円くらいかかる。
- 地雷でけがをしたら、治るまでに1年ほどかかる。
- けがをして1時間後に病院に行くと、20cm上まで切らないといけない。(肉がぐさぐさくるから) へたをすると、死んでしまう可能性もある。

ソパアックさんから学んだこと (その他)

- 一番問題のあるのは子供。でも1人1人の願いをかなえるのは難しい。
- 一番 あつていやなことは戦争。
- 戦争の原因は、いじめや差別から始まる。それが大きくなって戦争になる。
- 自分の命を捨てるまで、相手に向かっていく。
- カンボジアの主な病気 → H.I.V
- 物価が安い (日本の 2/3くらい？)
- お寺に行く時 → 100% シルク
- 外見で判断するのはやめてほしい。

資料 10

次に、尾北国際クラブ・タイ支援の会会長さんをお招きして講演を聴いた。タイやインドの衝撃的な話に子供たちはさらに驚き、ボランティアの心についても学ぶことができた。

子どもたちは、ただ、かわいそうだという気持ちだけでなく、自分たちが忘れていた大切な心を教えてくれた同じ時代に生きる世界の仲間のためにできる「チョボラ」がないかを考え、次のことを決めた。

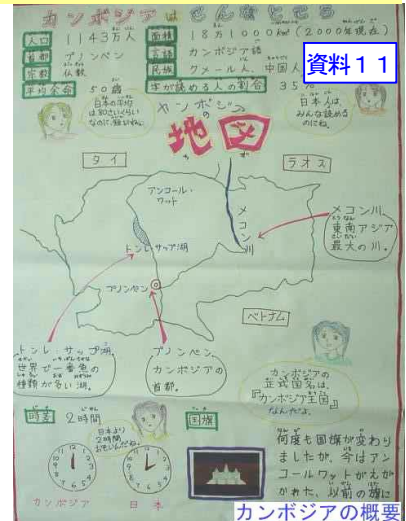
わたしたちにできるボランティア活動

- ・ 学習発表会で児童や学区の人々にカンボジアの良いところ、現状を伝える
- ・ カンボジアの子供たちのために文具を集めて送る
- ・ Cさんに日本の絵本をカンボジア語に訳してもらい、それを絵本に貼り、手作り絵本をカンボジアに送る。

② カンボジアのことを調べて学区の人に伝えよう

子どもたちは、カンボジアの地理、歴史、文化、アンコールワット、子どもたちの暮らし、言葉、地雷、現状に分かれて、それぞれのカンボジア調べを行った。そして、日本文化での中学生との学習を生かし、調べた内容をまとめた模造紙、カンボジアに行かれた写真家から借りたアンコールワットや人々の暮らしを写した写真も発表物の中に入れて準備した。さらに、学区の方や幼稚園の子供たちでも楽しめるように、カンボジアクイズや自分たちが感動したカンボジアの子供たちの紙芝居を作成した。

そして、学習発表会で、学区の方々に効果的に自分たちの学習内容をアピールすることができた。その時に集まった文具は、カンボジアの大臣に紹介してもらった村の子供たちに直接手渡しして喜んでもらった。また、絵本はコピーをBさんに送って翻訳をお願いし、カンボジア語の絵本作りが始まった。



資料 11



写真 9

クイズ形式で学区の人にカンボジアのことを伝える



写真 10

子供たちのすばらしさを伝える



写真 11

学区の人から絵本や文具を集める

5 研究のまとめと今後の課題

A子の作文

カンボジアの子供たちに送る絵本のコピーをした。日本に住んでみえるカンボジア人のBさんという方に、文章をカンボジア語に訳してもらったためだ。そしてそれを絵本に貼ってカンボジアの子供たちに送るのである。きっかけは、そのBさんのお話だった。カンボジアの子供たちについて話して下さったのだが、その中に、「カンボジアの子供たちは、日本の子供たちより明るいです。」という話があった。貧しい上に地雷で大変な生活をしているのに私たちより明るいなんて。そういえば、先生から見ていただいたビデオに出てきたRちゃんも明るく優しい子だった。地雷をふんでしまっただけで、自分の方が大変な目にあっているのに、友達のことを考えて自分に近づかないようにと言えるなんてすごいと思った。片足をなくした後も、明るく過ごし、同じ目にあった子のために医者になろうとがんばっていた。私はカンボジアの子供たちから本当の優しさと勇気を学んだような気がする。

Bさんの話では、カンボジアの子供たちがすごく絵本を読みたがっていて、絵本がもらえるとすごく大切にしているようだ。

そこで、学習発表会で学区の方たちにカンボジアのことを知ってもらおうと思い、カンボジアのことをまとめて発表し、絵本を寄付してもらうことにした。学習発表会では、毎年6年生が、カンボジアに寄付するために鉛筆やノートを集めていたので、それと一緒に絵本も集めてしまおうというわけだ。終わってみると、絵本が結構集まっていた。これならカンボジアの子も喜んでくれるかなと思った。

私は、集まった絵本の中から30冊ほど選んだ。選んだ本は、日本の昔話や世界の童話がほとんどだ。お話を楽しんでもらいながら、日本や世界のことも知ってもらいたいからだ。

そして、次は、その本をコピーする。コピーしながら、この本をカンボジアの子が、ずっと大切に読んでくれるといいなと思った。これからも作業を続けて、早くカンボジアに届けたいと思っている。

作文 6

(1) 研究の成果

手立て①について

留学生との出会いの場を設定し、価値観の違いを見いだせる質問をすることにより、子供たちは、外国の人たちが自国文化を大切にしていることに感心し、さらに道徳や文化比べで、日本人が昔ながらに持っていた考え方を尊重し、それを世界の人々に伝えて理解してもらうことの大切さを学ぶことができた(P4作文1)。そして、自分たちで課題を見つけ、それぞれの日本文化を日本人の心にまで意欲的に追究していくことができた。

手立て②について

追究の手立てを考えさせることにより(P5資料5)、日本文化伝承者や祖父母、学区の人々からの聞き取り調査から、日本人の大切にしてきたことだけでなく、仕事に対する誇りや情熱をも学ぶことができた(P4,5の②日本文化を調べてまとめよう)。さらに、留学生や学区の人々という発表相手を意識させることで、発表方法を工夫して伝えることができた。また、相手が楽しんでくれることを自分の喜びとして感じることもできた。(P5資料5,P15写真9・10,P7作文2)

手立て③について

中間報告会で検討会を行い、相互評価やALTからの他者評価の場を設定することにより、伝え方の基本を学ぶことができた。(P10資料8,P11資料9) また、友達や他者からの客観的な評価は、発表への自身につながることができた。(P11作文3)

手立て④について

児童の作文から

・日本文化発表の内容など、大変な仕事ばかりやってくれて、わたしは、Iさんみたいな人になりたいなと思いました。今年の交流は、すごく楽しかったです。・・・
 ・O君は、リーダーシップがあり、とてもたよりになりました。初めてあったときはとてもこわかったけど、話し合っていくうちに、おもしろく、温かい人だとわかりました。・・・
 ・はじめは、わたしが指示をしていて、中学生は少し頼りないなと思っていたけれど、今では、中学生のY君が指示をしてくれます。分からなくなったときは助けてくれたりして、さすがだなと思いました。やっとファミリーだなという感じが出てきました。・・・

作文 7

中学生との活動では、小学生単独では味わえない経験もでき、中学生からまとめ方や人との接し方等多くのことを学び、その後のカンボジアでの学習で生かすことができた。また、中学生を自分の目標として成長していこうとする意識も高めることができた。

評価について

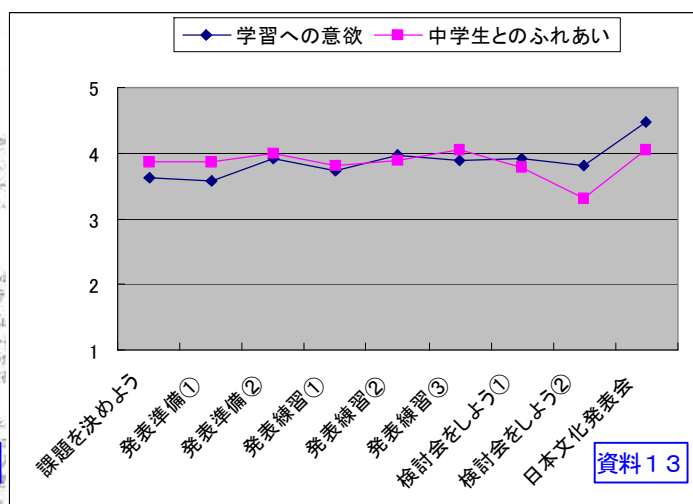
自己評価については、前年度までと同様に作文と感想カードで行ってきた。作文を書くことで、活動への自己反省をするだけでなく、自分の生き方についての変容もまとめていくことができた。また、朱書きで支援していくことで、次の活動への意欲も高まったと思われる。さらに、全員の作文を常に背面黒板に掲示したり、交流係による交流新聞に作文を載せたりすることにより、読みあって互いの活動を知り、次への活動に生かすことができた。

反省カードには、活動内容と中学生とのかかわりについて書かせてきた。はじめの中学生との仲良し会をレ

Mystery Hunter in Japan ふれあいの記録

学習の内容	中学生とのふれあい
5月3日 伝える文化をわかつ	自然に話しあひあひあひ
家の作りは、おもしろい	おもしろい
いじやうたのせいで、おもしろい	最後に全体の話を中学生が
が楽しかった。	おもしろい
意 欲 1 2 3 ④ 5 → 5	ふれあい 1 2 ③ 4 5
6月3日 日本文化発表の準備	中学生が、家の見取り図を
自分の部屋に、おもしろい	おもしろい
生は、おもしろい	おもしろい
おもしろい	おもしろい
意 欲 1 2 ③ 4 5	ふれあい 1 2 ③ 4 5
6月5日 日本文化発表の準備	おもしろい
おもしろい	おもしろい
おもしろい	おもしろい
意 欲 1 2 3 ④ 5	ふれあい 1 2 3 ④ 5

資料 12



資料 13

ベル3としてその後の活動について評価させてきたところ、「日本文化を伝えよう」では、常に高い数値を出し、その中でも徐々に意欲が高まっていることが伺える。

(2) 今後の課題

児童の作文

・ ・日本人でも外国人でも、お互いに心を開けばすぐになかよくできるんだということがわかった。だから、世界中の人が心を開けば、そのうち戦争はなくなって、平和な世界になると思う。そのためには、お互いの文化を知ることは、とても大切だと思った。・ ・ ・ ・ (A子)

・ ・今のわたしにはできないことがたくさんある。けれど、人を傷つけないこと、人に優しくしてあげることはできる。少しでも、みんなに笑顔でいてほしいと思うから・ ・

作文 8

この学習を通して、子供たちは人として生きていくために大切なことはどの国でも同じであることや、互いに心を開いて認め合い助け合って共に生きていくことの大切さに気づき、今後の自分の生活や生き方を見つめ直すことができた(作文8)。また、ALTや留学生、日本文化伝承者や中学生、学区の人々など多くの人とふれあうことにより、共に生きる喜びとまでは行かないまでも、人とのかかわることの大切さや喜びを味わえたと思う。

しかし、自己評価においては、今回の方法だけでは個々に観点が変わってしまい、育てたい力に対して意識が向かない場合が出てきてしまう。そこで、今後は、テーマや学習との関連をふまえ、活動ごとに項目別の評価方法も取り入れて、学習と評価との一体化をめざし、子供の成長に生かせるものにしていきたい。そして、子供たちに自立の基礎を身につけさせ、国際社会で力強く生きていく力を育てていきたいと考えている。